新板
會入

風流諸家集

二之巻

へ達13
2.041

書林 明石中町 紙屋周助

風流源氏軍談

目録

第一 [illegible]

第二 [illegible]

二ノ巻

第三　海苔ゑ敷を来新母衣

源氏乃侍

第四　ひごもりで厳重ゐん

平家乃侍

生死のさゝひ

一　極悪極り行てもひとすぢに教

者も極まれば善と成べし。されば法華経に入る人の頭陀

さゝびとゝやされば法華経に入る人の頭陀童子ゝ釈迦よ

生死を離れみしかを悪もの。釈迦の教法の中に

ばかりの法華りくハ死刑ふ不ものぶいたんや。其の拳ども。

ひとくれ根の一念法華の頭陀を行ゆるし

ものびゝよ。釈迦の教法を行ゆるしなば。門

ハいよ乃ゝ沢平家の重恩ゆゝ。ゝ品ゝにゝを

いゝ母兄弟母親母親母の名聞ゆゝ

どもゝ漢の医者ハ。ゝ

もゝ人ゝ。ゝ肝膳ゝ

ありひの孫乃濕きれて、ぞふ孫のえてぶれば、二作の屋そのの。
さくくひして、郷代京字作の神、八夫後すよりくこれば。
彩軒を義らきこべくと、おれの重重ろこと、度とちられ
ども。主盛こハけ年間、ぞ乃ぞ、ぞ乃ぞ、いさめ、くぞかひ
ぞれば、彩ぞ、ぞを白めあひつふおんきぞ、ひとりまひ
しぐん年にあり、ぞう。ぞ絵天令きて。年面の亡ひんす
まるんりへけ炎と、食として、ぞ底われべぞく。ぞ
作ふいのくんぞてろぶしへぞ、まこべ、ぞろとりぞ、ぞ
の、ぞせと、彩ぐくそぞ、ぞ、ぞ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しらく。おれらみな世をそむき剃髪して
それ滅亡の前ぶれ。それ人の天性をたがへ。
あぐも。光よりけぐも。魂魄かりの天地。
別れ。ちりぢりに。おちうせ。浮世をいとひ。
人をあつまりすぐれ。仏神のぞみをとぐ。
をかまあるあるあるあるあるあるあるあるあ
なのたのしみ。ひとりとして。なまぐさ
わつて。法華経まもりく。天下れ
ぬ。くてよこの法えもの。うぐ
百万。おこりとりとも。法華を
と。怪しみもなく。ひとれば。
ありこの法華経をとりてきてみをもつ
ぬ。ぬこせりとこのことをとりどの。
さあざ。ぬされば。古法華。いとく。
りちひらきすんべすかのち。
いとびつくもわずぬ。ぬぬに。
あすかの。法華をおこなうぎを。
ちくび。浮すにしくびの。
金ぐしと。稚まつりして。
おこしとぶ。結ぬ。藤の。
東二ぬ。あるりどもくべ。
法ぎるこの。野原。まれ。
まべ。乗法ぬ。ぬぬ。

これをたづねんにはあるべからず。ぜんぜんたいしゅを以て信玄様
たべ。あるいはもりもりまんぜ半ば一色なりくへ所信玄の曲は
て軍者におこてるゆゑふし信氏の業。信敬せば信玄をてん
後ふ立。来牌おつとうてゞ初せんちそくくハ是て有。是を
いそうれくハゞ世有りゝ。志信張ゝ。たゞ矢さばゝよにうを
らまいびゝ。元来拾二面くるゝ。ゝ。戦
場ふるゝ死すゝ。ゝ。ゝ。

てぶるまひ。ばしやうの紙の白粉漆喰を塗づくるに
俳人かとうぶてくあるく世のいとみのうさをしくあわるべき中
ふも一流の俳諧狂歌一種よとこそ云かくにわづらはしき俳
文の発句あり俗語をうつしるる種元もさぞにわろきに
ハ表ふいづるを恥ぬ者のゆるぐ。序ふつりべをも
ひくき。エベンくトすんぶ。俳今日流行ハ俳諧の点の兵
中俳特流俳特冊乃二箱文合一ものひ。ものの文庫の拾文で
ちゞかりいづれもとくやもとでいけるかにはれるべ。
今の世人おろかの国を庵人のまれをたくづくれ天平の
俳諧ばくつてもうぶ非文のあきるをたくべ。すくうて
き者ひ所集ふ者をとうぶ。ものべやと。十面毛ふ
多語ひとみうらんやせ。わふ俳。街乃さかぎ立やこ嘻

ものよ。俗人へうとさへげいとも。俳元ハ活く立さう
ねぬ。ちうあ。ふといぶりてかにいろれば。ちうもちぶ。
と。女ちうべふそやされて。俳元をわてぶふ。俳元ちうの
き。狂人のゴ。ふ。ひのあるの和をうへばうへそやさばそや
せとゴ。ふりてうがゴ。とそもいろの。俳元ちうのれの。
ちもむぶてとれふせれ。狂ども人くハ。ぶ。言遠といちび。
いとれをちうねちろうさふ。ア。ふ俳元ちうくきて。ゴ。ちやく。
ちぶちうねちそちうちとふ言遠とそわかとうう。俳わかぶ。
あとや。ア。ちうぶりとうて。ハ。ちうの。ふ。ちうのるを。
ふ。ちうさんちうふ。ゴ。ふ。ちうもふれどぶ。ちうふてぶ。ちうの。
ばうちうといてゆ。せふう。ちうんぶやれふいふ。ちうや。
ちうれ。ひくちうんちうや。アノ牛のゴをちうちうちうや。

行ようすをいかるう。白ひげ長ぐ垂れて眼を二重にして
らてぷてぬうはげうんてくいハ。やいやとのふうつうれ〜やと
ーぐいかすきくかくねとかつぷとふて泣ろんへせてぐいか
くぞうんてかろう。雅乃ちゃ一組ふハ三ちうう。雅女の雅雅
ろかくうさんぷぐまぷうろかのこやふもぷあるぷとあ
と。遠藤ろんせを片付てらくやと傳へ書。これ見れきちびひ
反。を行ろ熱茶ぷ。ろれ〜遠藤ろ防げ。ちろと驚くけても
らひまをう。コレ行きちれこれ
立。ヤアなぐ〜雅を女房ふ行て。遠藤高貴ぷうとやこれハ
ぬり〜ろらふ〜ぬうろうこうて。ヤアこれへ坊ろ〜ヤイろう
やぷるく少行ぷ。ゆびをさしてぐぷ〜ひるぷ。ろるぐへ
ろ〜どりてわろひ〜ぷ。ゆ

ずをひとりうぬぐきぷ。ぷぐらそ四人義をとてこと忠ある。
ちぐ〜くわりて一組ふへ。雅女よむひやけりはぷ雅ハ源の
雅女ふてふひまぐ。ぷ〜ぐふれ〜ふ。ぷ〜ぐふれし。
義ふ源氏のゆうと。ぷ〜ぐう。かくや長こう。無垂のふ高
矢ぐ〜ぐ雅。義ぷ。幼ひの時ふ歳ふ。ぷ〜ぐ雅ぷ雅ぷ雅
乃奥義を授わ。源海雅ぷ義ふ。ぷ〜ぐ〜ぬ分ありし。ぷ。天性腕立
をぬみ。ぷ義ふ天ぷとり例。或ハ垂ふ。ぷ雅ぷ。それぐ如ぐ〜ろ
ぷ。ぷ〜ぐ。我雅ぷ。ぷ義ふ。孫義ふ。ぷ〜ぐ軍の雅義ふ。ぷ〜ぐる
雅を授。ぷ〜ぐ。常に雅ぷ味ぷ。ぷ〜ぐ。ぷ〜ぐ。ぷ〜ぐ

ぞうり奏くるを手あのもとたづいうつる。烏帽子着と候く汁
ぬんと乳をふをく代。頭のうけまべぜひのとくのめと
いとぬ強ぐせうに牡女ハ始終をを色ぐ上げる新を
上ぐてくうれきくの言葉やかハ行をうもべきぐれそ
源氏義新のつまと死ハづかれ家のるぐやぐれ二人の子を
おぐ。ふぐ人今ろハむるくれる。ひろとアせくハ出るくぬて。ぐ
のおにてそぐれども。天下ぬるをとりの黒ことてもち面
さぐ来よまれ牛ぐこそ。ニス人のはふハりて。世に新ぐきい
さきいのとりけるをとりを立て源氏の様をわびさせかけ文
の家ぶれ新ぐいきどをりをやすめんと。川書こうを立色
ぐ二年ぐろふとうれてうぐ今にをもうをやぐ生死の
りどもてくねどわいくぐくうの角ぐを立る。新のをを立ら

ぬ子と怪こそみくりろやみぐくこうれれハ色わくうき死を
やなりあるかとおりくハいくぐ言をいくぐ人ぐるれ少く忘安稼ふ。
ちくせ立くと法ろに面のふる目も風のうこ強でうてぬ米
ハ面。おまりれるのわのくさに。わくねやに文をかりうつく
なれいひるのふてうをこ死そくくひるバ源氏こうばれ米士
うぐ米まろ乃米を。ちくくうこのうるのくバ耳にてくくて面と
技け。牛ろふとわくせこれ面くと。ハんと梅こそわくハくくひ。ふ源男
の分れ言葉の来。ぐうれの。おくくうけをぐくやくんれも利と代ちる
強をるいぐ。牛ちるぐちふ面。これくそ源氏の様ぞや米花
り面りわひ。源さんとおくくも。代男を利みやりぐうりのち
ハ源氏ふちくをそくのひ。牛まれ花が有面とも。ぐ弥出くて
いくくぐ代。くやくうとぐうれと世りまるやに言くハ食ぐハット

ひをくれば猿をあいぐ
乃毫おれ〻ぬひ〻ふれ兎うさぎ
葉これをあ水中にあ
玉圓圓仕事
もかの〻ぬりどへ
うぐへされば
傷みて
三梅の枝ふへ
弁ぎうろこ
て葉ぐ
やうんぐ

とゆ

ぬぬ猿をあ
ぬぬ兎うさぎ
ぬぬ
ぬぬ
ぬぬ
ぬぬ
ぬぬ
ぬぬ
ぬぬ
ぬぬ
ぬぬ
ぬぬ
ぬぬ
ぬぬ
ぬぬ
ぬぬ
ぬぬ

ぬ乃一ぬに
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ

三

ぬ

ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ

まつりさんれんとやそのとどのあるさけわりをかれにをぶさん
とうれくさうくどおんまりこづんざをのをけどふやらすく
ごとげをむるんつるあるいれもりてあるんとお
りるるさやをんるるさのぶくへいやとをまりをせべ。海苔
てしおのりそれいちぶ月ちびひまこ〜ぶたるをすべども。
をもをこつのこ樂を出さびさ。ぶりこ〜ごひのひおば醫
をもも腰ありとも。ぶまんぶれのどみあれとお新まなりて
いひそれべまごれてるふひうおりくそれいうりきれぶそん
るく女房おのるまじやご。ぶまくまで五月雨のあきこのはは
ちごてご一つきのどくと。面白くのすれべ海苔へごりをふつ
ているく女房ハ梅あき。あるひちおもさにあるまで二人
もらびぶ。秋のさびきもの新へ。ふとんをうんと引ぶり。高

かていまするをこいくへまごきハあきあ。そんなるこうんの月さ
ぶ。ちてちゆでごさんをうとぶ。ぶねべをとぶ。ぶるても
ふも五月雨ふも行ふもかふもまるうさひとりかるぶをてるる
をもあるこへ稲ずるこを。吟りの月きあくあるんぶりて。ぶりね。
大出さの三の襦あるりとぞやるる。まるごきもさすご月水扇。海苔ご
ているくるりのどかるる風俗とも。行ひくらるね。ぶるつるり。
兵人ふのびと合題てこれいくる言さんごかれしられ。海苔女
房ふ物まるをふひまるりけて新まるるなるりして海苔べ行ご
さそくびは世ハちろう二世三世ひ方ふ新のあとやせべるるて
やるのりやをふうち月てるきんするぶるごふ月にて新さひ。
大るをまを物さ。弟やのて新れてびさりまをとあり月べす
それいてごひか会。さるひけ月ハ新ふかも。おるをせハ有ご

さうもんぐ。ぬぐ。ぬぐ。はなの緒。ふ。あまれば。ぬ。まづ。はかれば。ぬ。ん。
ぐせん。今一二町ゆけば。家。有。名者。それを。聞。て。
とくに。ぬ。ん。ぬ。すく。ぬ。ぬ。ぬ

民家の老あるてぴたりとこれをまつてゐるのびこれをまつてゐるのびてかくやうりてまつてゐるかさんがこれをまつてゐるのびいろ
ふとりしへ城中ぞ伝ぐそれてゐるのびて。ヨ、雑ちあんどきこんぞ
ゐべ。城ホニ人へしすくべぞやくいちげとちんぞいざ出入ゆ出
とおつうれてぞ行さきは矢ちぞ伝のすあひのあるりそう

四

ひぐちで庵のあ人孝ちたのさうひ
ゐくせしやぐんぞうぐさぐ手ぞのりやふ来ちれば。城中ぞ兵ハ
手ゐ立ぞ国の者をうぐへびきれ手のやうゐくぞ雑ちぞうぐ。
やくうひゐ。城中盗ちふしいゐやくへ。パテすきまうきぞいきぞ
うれ。をぐ伝ぞへ行とふやうちぞへ。武ぞ坊と
ゆ考ぞと。空て傷ぞうちぐへ。城武坊とハ毎ちぐ掌ゐん。
のふ伝ちそちゐくべがれゐのきあぶれん。来ぞ人年。廊ちくハ

伝ちふ伝ゆうき。明の場ちに生ぞせうぐ。ちれをいくせ
ちぞどゐゆせ。ふ天の服をひき出。ぞ手のちたぞ六人ぞ
中ぞ。れ伝豊のように人礫。それゐ。ぞ。ぞ手
ふゆげのちぞ。ちて抛倒。そちらゐくりいちぐ伝庭イ
やハやこ武ぞ坊のあ外ちぞ。ま少へ所の坊ふ退出ちれ。ぞちとせ
ゐりしぐ。ねハそちぞふくぐひゐのと。奥ちぞ坊ふ坊ぐよ伝
ちぞふゆきれぐ。ねくそれいちぞ。
ぞ逆ふ武ちゐん。ぞいふ痛ぞ。ハ。ぞ武ぞ伝ぞ。令
ふつぐゐく。ぞ。ぞりとゐひ。ちれば。城中とふぞつぐぐら。
イやくきやちふ。ちゐ。ハりねね。ゐのちたハ法り出ぞせぬう
んちゐのちぞ。ハテ武ぞとふぞを。ハ法ちれぐやちんと。
ちゐでこぐちねやぞ。りハ上伝ちぞ。ちぞうゐきぞいゐ。ちぞ伝

[illegible]
[illegible]
[illegible]

おのゝこのまつぎ。ときこえけるをうちいて
うしろかげのゝときこえ。きこえませぬかとふへまつこひ
させわつくりと云ふ所てがそんのゆゝぬ仕様とぶべ言葉
ハぎつきげせうをなでさすり。ヲヽ、ちりはりこれふハ
どんくのぶよわりてハ無こわ所ぞのゝハ梅ハさやうう
ぶこれやこれも又ちをでゝ。かやりくとのゝれべ海ねつこもそ
四ヶ入。ナニトひきゝといひけまべ。矣ぞ移ぢもいきゝ。ちやこゞや
と。ふもんをすれべ海ねハ初くと儀ふりう。コリヤ矣ぞめれ
ちゝハ城中上結といふ字ふ所ぞのうつそうどもいつふんてしハ。
小橋のゝ人ぞ所ぞやゝいふゝへどきこれを問通ぶくさ
をてでくねてれをちくしてぞうふ所。ぞとえわれのう
色ゝふ出会ぞのちゝけれ戦こうぶ所ぞ力ヶ結とありぶ。

うれくに出こうせてどくなどうぞうとこ。雲霧ぞの
ぞ人こそ所ぞふのさいてひ城中上結と作天ゝこれいど
ふゞやと所ぞ出ぞ所ぞ今ハうれ。海ねハ月ぶけうれ
うをひしゞつて小橋をぶちすくうどうさぶ矣ぞ最
びゃゝ海ねハ月ぶ所。さくべこれくゝ結んが役いで月ぞこの
鶴ぞ強ぞつれ侍ゝ。およにゝうんとちくゝ長。城中ときりと
ゝそやとうハのれハ敷ゝ。ぞてちとゝやぶちあくち城中とぞ
ぶんゝとやいふつけゝくゝ。きのれ四くふ所の所ふ動ぞ
くちくれべ中一作歌なりぶ。源氏のゝ所ふハ歌のつゝ儀ぞ
いけてちれべとぶくれべとびすゞり。ア、これく矣ぞ月れ
まくくゝ来ぞやくく。結結いくゝ月ぞ。これありとゝ結ぶ吹入
ずぶくくゝ来ぞと仕ゝ。コレ上結さのぜんいくくゝたれハぜ。矣ぞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]